かずさの博物誌

タマムシ

～灼熱の空に飛ぶ～

文・写真／成田篤彦

2016.10.20

タマムシを手にもって歩いていると近所のおばさんが「きれいね。もし、いらなくなったら、ちょうだい」と言ってきました。

数日後、タマムシが死んだのでおばさんの家に持っていきました。

「ちょと待ってね。箱をもってくるから」とおばさん。

おばさんは綿をしいた箱にその虫を入れて、タンスの角にしまいました。

「こうすると着物が増えるの」。

昭和二十年代の話です。

この当時は友人の家のタンスにもタマムシが入っていたのを覚えています。

この話は全国に伝わっている言い伝えですが、もちろん、着物は増えません。

しかし、いかにもタマムシの美しさから生まれた話と感じます。

また、タマムシのはねが法隆寺の「玉虫の厨子（ずし）」の透かし彫り金具の下に使われているのは有名です。

▶エノキ　タマムシの食樹　＝二〇一六年八月十二日

▶はねを開いたタマムシ　＝二〇〇九年八月十九日　君津市

修学旅行で法隆寺を訪れた時、厨子にほんの一部、タマムシのはねの破片が残っていて、光っていたのを思い出します。

タマムシのはねの色は変わらないので装飾品などに使われます。

かつて、日本でタマムシの飛び方を参考に飛行機を発明した方がいます。伊予松山の二宮忠八です。

世界に誇る発明でしたが、認められず、埋もれてしまいました。

さて、タマムシには、ここ数年、夏に上総の海岸沿いや丘陵地の集落のエノキやケヤキの周辺でしばしば出会います。

いつも、灼熱の日の時です。

タマムシがエノキの樹を、夕日を浴びてきらきらと輝きながら飛ぶ姿は実に美しいものです。

「空飛ぶ宝石」というのもよく分かりますし、良いことの起る兆しとして、吉兆虫ともいうのもよく分かります。

しかし、一方では黒い眼が不気味に感じることもあります。

四年前には屋敷林の半分枯れたエノキの大木に数匹のタマムシがうろついていました。

そして、産卵管を出し、幹に刺していました。

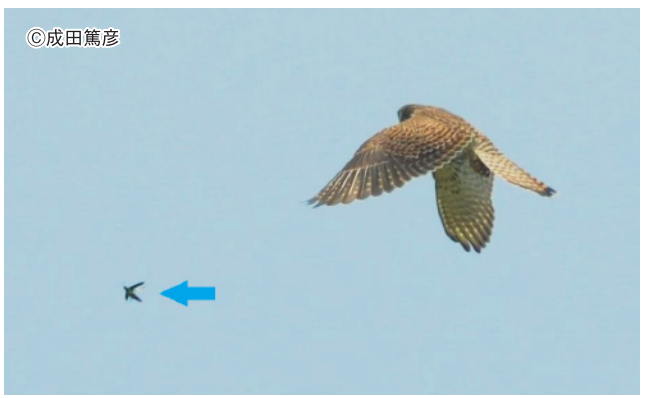
彼らは枯れたエノキに産卵します。幼虫はその材を食べます。

成虫はサクラ、ケヤキ、エノキの葉を食べますので、害虫でもあります。

いずれにせよ、タマムシに出会うとやはりその日は幸せな日に思えるから不思議です。

▲タマムシ　エノキの葉にとまる＝2011年８月30日　木更津市

▲エノキの幹にいるタマムシ　産卵管を刺す
＝2011年８月30日　木更津市



▲飛ぶタマムシ　チョウゲンボウに狙われる。矢印はタマムシ
＝2013年８月11日　木更津市

memo

タマムシ

コウチュウ目タマムシ科

体長約三十五ミリメートル。七月～八月に出現。本州、九州、四国、中国、朝鮮に生息。

参考文献　房総の草木虫魚70号　千葉日報09 九月二十日

◎写真・文章の無断転載を禁じます。